

令和4年度第2回小田原市みどりの審議会 議事録

1 日 時 令和5年1月17日（火） 午後3時から午後4時30分

2 場 所 小田原市役所 6階 602会議室

3 内容

議題

（1）街区公園の再整備の進捗状況について（報告）

（2）街路樹の再整備の進捗状況について（報告）

（3）その他

4 出席委員 榑野会長、土屋副会長、西村委員、府川委員、相原委員

5 事務局 杉山建設部長、下澤建設部副部長、松本みどり公園課長、武藤副課長、
山崎公園係長、石黒計画緑政係長、片山主査、永井主任

6 議事の概要

議題

（1）街区公園の再整備の進捗状況について（報告）

事務局から資料1により説明

質疑応答

委員 : 資料に記載してあります、これまでの経緯で9月のワークショップではどのような意見が出ていたのでしょうか。

事務局 : 現在、植栽の手入れが行き届いていない状況で、雑草も多く、イメージ的にも暗い感じがするという意見や、サクラに関しては、だいぶ朽ちてきており、水捌けについても問題があるのではないかという意見が出ていました。防犯については、不審者などがいるという情報もあり、心配であるという話が出ていました。どのような公園にしていきたいかという意見については、水捌けが良く、サクラは今まで植栽されていたということもありますので、植え替えをしてほしいとの意見が出ていました。遊具については、できれば大型遊具、複合遊具を設置してほしいとの意見をいただきました。また、休憩施設、雨よけ、日よけができる東屋を設置してほしいなどの意見も出ていました。

委員 : 今回再整備を実施する現地を見させていただいて、非常に住宅地の中で、駅にも近く、小さい子供も、高齢者も利用されており、色々な活用がされている場所だと思います。公園としての使い勝手も良く、皆さんの意見がどの程度出てくるのかと少し思ったところです。今回の資料にもあります、「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言（概

要)」が、考え方として良くできていると思います。ポリシー、ビジョン、考え方などが、何に基づいて行われたかを明確に言えるようにした方が良いと思います。この事業は、大変丁寧に実施されているので、問題は無いと思います。ただ、今後第2、第3の公園再整備についても、ビジョンなどの議論があっても良いのではないのでしょうか。

事務局 : 街区公園の半径 250 メートルの区域の中には、幼稚園や介護施設などがあり、当然地元自治会もあります。まずは、率直な意見を聞いてみようと考えました。市も、今回の再整備対象公園は、樹木が多く、暗いイメージの公園だと思っていましたので、今後は、色々な意見を基に、何に重点を置いていくのかを考えていく予定です。

委員 : 街区公園なので、役割として、人が集まる、防災時、地域の子供たちの憩いの場ということを、明確に謳われていると、意見などが寄せられた時に、明確な考え方が示されていれば、しっかりと対応ができると思います。そういった面である程度、市がポリシーやビジョンを持っていれば、意見に対して対応ができるのではないのでしょうか。

委員 : やはり市の方針や考え方は明確にした方が良いと思います。

委員 : 今回再整備する公園には防災倉庫などは作る予定なのではないのでしょうか。

事務局 : 現在、現地には6つぐらいの防災倉庫があり、自治会からは、既存の場所に置き、防災訓練での使用、有事の時には避難場所として使用することはできますという話を聞いています。ただ、倉庫の置き方については、防犯上のことも考慮し、2つずつ間を置きながら置いていくという意見も出ていましたので、今のところ配置は多少変更しますが、防災倉庫は置くようになると思います。

委員 : かまどベンチというのは利便性があるのでしょうか。

事務局 : かまどベンチについては、第1回の本委員会の時にも、少し委員の方から、防災の関係についてはどのようにになっているのかという意見があったと思います。そういった状況の中で、この公園でも防災訓練ができればといくことで、かまどベンチを提案させていただきました。常時使用するものではないが、有事の際や防災訓練の時には使っていきたいと考えています。

委員 : 現地視察の時に話をしましたが、かまどベンチというのは、結構防災公園では設置しているところが多いようです。ただ、熊本の地震の時に、

防災仕様の公園がありましたが、実際は手持ちのコンロやキャンプ用品を使っていた人たちが多くいました。あまり、かまどで火を使って、何かをすることはなかったようです。かまどベンチは悪くはないが、実態は少し違うかもしれません。

委員 : かまどベンチについては、私も設置したことがあります。確かに利用は今の時代、少ないのかもしれませんが、事務局から話があった、この公園で防災訓練をやってみようかという地元の声があがったことは良いことだと思います。要するに、かまどベンチをきっかけに、防災訓練をこの公園で実施するという事になったというのは良いことであり、地元からの発意があるというのは、とても大事なことです。せっかくかまどベンチがあるのだから、ベンチとしての利用だけでなく、防災訓練の時などには、使うようにしたら良いと思います。このように、かまどベンチを使うという形であれば、万が一、災害の時に使わなくても、利用価値としてはあります。上手な使い方を、事務局と地元で調整してもらえれば良いのではないのでしょうか。

街区公園の再整備というのは簡単そうで難しいです。私も再整備の設計をやったことがあるが、自分の満足できるような設計はなかなかできませんでした。ワークショップの時には、最初は苦情から入ることがあります。地元の方々は、その公園を使っているから、良くわかっています。舗装が悪い、水たまりが多いなどの意見が出てくるが、そのような意見から整備に向けていけば良いと思います。先ほど委員が言っていた将来的な展望に繋げていくのがワークショップのやり方であり、そのように回数を重ねていけば、職員のレベルアップにも繋がり、地元の方々も市に対する理解度も上がっていくと思います。

委員 : これから再整備を予定している公園についての市場調査が重要だと思います。どういう人が住んでいて、特に年齢層。高齢者が多い地区なのか、子どもが多い地区なのか、また公園がどのように利用されていたかという情報を事前に調査しておくことが重要です。そういうことを含めて、新しく2期、3期と再整備を実施していく場所も考えた方が良いのではないのでしょうか。より、効果的な場所を考えた方が良いと思います。なお、後でご説明する国土交通省の検討委員会の提言ですが、その話が出るきっかけのひとつは、全国にある街区公園が、老朽化などにより問題

がある場所が多くなり、活性化したいということです。まさに市長が考えていることが全国的にも同じように起きています。公園を活性化することで、地域づくりや、コミュニケーションの場としても活性化していきたいというのが国からのメッセージです。そういうことを踏まえると、既に取り組まれているということは、非常に敬服に値します。

住民の皆様の意見も貴重なものでありますが、その通りに実施すると、あとでがっかりすることが結構あります。他市でそのように実施した事例を見せていただいたことがあります。出来上がりの姿は、あまり公園らしくないというところもあります。やはり、先ほど委員が話していたとおり、公園としてどうあるべきか、将来どうしたいのか、市の考え方をしっかり持って、実施していただいた方が良いと思います。

防災の話もありましたが、市民の皆様は、防災体験をあまりされていないと思いますので、防災についての意見が出にくいのではと思います。そこは、他市の経験なども踏まえていただき、お金はかかりますが、本来用意しておかなければいけないものとして、例をあげると、防災貯水槽とかがあります。熊本の例ではかなり活用されています。あと、例えばキャンプ用テントとかがあります。地震が起きた瞬間というのは、家の中にいられなかったという話がありました。みんな公園に避難していましたが、車に避難していた人、テントの中で過ごしていた人が多かったわけなので、防災仕様をどう考えるのか、また、日頃の防災訓練の中で、市民の皆様にもそういうのを用意しておいてくださいというものもあるとは思いますが。

遊具については、外国の例でも国内でもそうですが、子どもにとって非常に魅力的な遊具があると、それだけで人が集まります。実際にそういう事例を見てきています。子どもは、公園の名前を付ける時に、メインの施設、例えばゾウの遊具があれば、「ゾウさん公園」という言い方をしたいと思います。メインの複合遊具みたいなものがあると、かなり効果的です。例えば、ロンドン辺りの街区公園の活性化は、やはり大型複合遊具を入れるというやり方を行っていたという話を聞いたことがあります。少しお金はかかりますが、それだけで賑わい、子ども、父兄が集まります。そこでコミュニケーションが生まれ、いい循環になるのではないかと思いますので、検討していただきたいです。

街区公園で、市場やキッチンカーを入れることも良いのかもしれない。朝市みたいなことを実施するなど、いろいろと実験的に試していくのも面白いかと思います。

委員 : 会長のご意見を聞いてだが、防災の関係だと、関東大震災から 100 年経過するという形で、きっと国を挙げていろいろなことをやるのではないかと思います。鎌倉市公園協会、神奈川県立大船フラワーセンターでも、防災の観点で何かできるか検討を始めています。関東大震災から 100 年ということで、そういうところを意識して、何かするというのも考えていければ良いと思います。

事務局 : 会長、副会長からのご意見をいただいたので、事務局から意見を述べさせていただきます。最初に事前調査の関係だが、年齢構成などということで、今後は国勢調査のデータを使用しながら、その特性を踏まえて調査し、次回の公園については実施していきたいと考えてます。

事前調査の中で、今ある公園で地域の皆様がどのように使っているのかということについては、調査したことがあります。例えば、ここの公園というのは、あまり使っていないくて、周りにある幼稚園などが運動会で年 1 回使うとか、餅つき大会で 1 回使うとか、あとはサクラの花見で自治会が使うという実績があるのは調査しています。その時には、会長がお話していた通り、これから公園を改良することによって、今後どんどん使っていきたいという意見があり、あと、これからの維持管理についても考えていかななくてはならないので、いろいろと戦略を考えていかないといいけません。

防災については、今回の資料 1 の位置図にある公園が 4 つあり、一番大きな公園は、富士見公園です。ここは先ほど委員が言われた耐震性の貯水槽があります。あとは、地域防災計画の中で、応急仮設住宅の候補地に位置づいています。やはり、中心となるのはこの地区では富士見公園ではないかと思います。南鴨宮新田公園についても、応急仮設住宅の候補地になっています。一般的なそれ以外の街区公園については、仮設トイレの候補地となっており、また瓦礫の一時保管場所の候補地になっています。そのようなことも踏まえて、今回の再整備を実施する公園については広場的なものも取りながら、遊具と分けたという経緯があります。防災について、本市には総合公園的な公園が 3 か所あります。上府中公

園、わんぱくらんど、フラワーガーデンです。基本的には、仮設住宅の候補地になっており、上府中公園は自衛隊の拠点、ヘリコプターの発着所になっています。フラワーガーデンは、崖地の山の方にあるので、土砂災害があった時の避難場所になっています。地域の防災計画を気にしながら、ワークショップの中でも、防災の関係の意見が出たので、意見交換をしながら考えていく予定です。

魅力的な遊具については、現在詮索している状況です。やはり、予算の問題もあるので、難しいところもあります。一度は、複合遊具や大型遊具を入れないで、個別の遊具で良いのではないかと考えていました。地元においても、そのような考え方でありましたが、複合遊具を入れることによって、少し色味が変わってくることも考えられるので、現在検討しております。

キッチンカーについては、令和4年12月4日に実施しました。本市もP-PFI まではいけないが、身の丈にあった、出来るだけのことは実施していくということで、キッチンカーを出店させ、出店者には公園の清掃をしていただきました。概要については、全国的に公園を使って、もっといろいろな取組みを実施していこうと。公園のあり方というものを考えていこうという考えで実施しました。実施日は、令和4年12月4日、午前10時から午後4時まで、天候は晴れでした。出店業者は、2店舗（ちくわドック、唐揚げなどを販売）で、当初は、今回出店した店舗の方も、公園ではなかなか売れないという考えを持っていましたが、試験的にということで実施していただきました。しかし、実際には用意していただいた商品は殆ど売り切りました。周知方法は、公園周辺への自治会等への回覧、公園周辺の小学校へのチラシの配布、街区公園の半径250m以内の住宅へポスティングを行いました。効果検証ということで、実際に来てくれた方々に対し、アンケート調査を行いました。来場者の比較に関しては、普段の日曜日とキッチンカーが出店した日曜日と比較した結果、倍ぐらいの来園人数がありました。キッチンカーが公園に出店することについてという問いについては、非常に満足しているとの意見が多数でした。もっと、いろいろな種類のキッチンカーが出てほしかったとの意見もありました。反省点については、キッチンカーで使用する発電機の音の問題で近隣住民から苦情がありました。最後に、出店者に

今後も同様な出店依頼があった場合は、出店をしていただけるかという話をしたところ、ぜひ出店させてほしいとの回答をいただきました。このように実証実験の効果はあったのではないかと考えています。今後、継続してキッチンカー事業を実施するかどうかはわかりませんが、このようなことも公園ではできるんだという可能性については、把握できました。

委員 : この事業は、とても良い考え方だと思います。実際に公園に来ていただくとお客さんの声とやる側の声の両方わかるので、とても良かったと思います。

委員 : 一つの社会実験だと思います。いろいろな場所でも実施してみることが大事ではないでしょうか。

事務局 : 今、公園の維持管理の問題がどこの市町村でも、課題になっています。出店者に公園内の清掃を実施してもらおうとか、出来ればトイレ清掃などを実施していただき、維持管理の削減に繋げていければと考えています。

委員 : 他の都市の例だと、大型スーパーマーケットに隣接する公園で、そのスーパーマーケットが公園の管理許可者となっていることもあると思いますが、トイレの清掃やイベントなど維持管理を含めて実施しています。知恵を出せばいろいろなことができるのではないのでしょうか。

(2) 街路樹の再整備の進捗状況について（報告）

事務局から資料2により説明

質疑応答

委員 : 街路樹の再整備計画についてですが、樹木点検から外観診断、精密検査とこのような形で実施しているのは非常に良いことです。市で管理する樹木、県で管理する樹木がありますが、県で管理する樹木は、完全に全部切られてしまっており、街路樹ではなく、棒のような木が立っているだけの状態です。例えば、県から市へ予算をいただいて、県の街路樹を市と同じ感じで管理することは可能でしょうか。

事務局 : 県は、年1回かなり大幅な剪定をしており、樹木が棒みたいな状態になっており、毎年同じような形で剪定をしています。

委員 : 県も年1回しか剪定しないのであれば、小田原市のやり方に則って、小田原市が全てやりますので、予算だけ県から市へいただくことは可能なのではないでしょうか。

- 事務局 : 街路樹だけでなく、道路も県道、国道、市道とあるので、市道は市管理、県道は県管理というのがありますので、なかなか難しいと思います。
- 委員 : 本日、西海子小路の現場を実際見させていただき、いつもはサクラの時期にサクラを見に行く見物客として見ていましたが、このようにデータで 46 本中の半分以上がいろいろな問題があり、数本は植え替えをしないでならない状況であるということ、根上がりの現状も現地で確認させていただきました。このようなことをデータ化することで、そのデータ化したものを、地域だけでなく、市の広報に掲載していただきたいです。委員も話していましたが、楽しみにサクラを見に来た人が、今年何かサクラが少ないなと思ってしまうので、データに基づいて、このような植え替えをしているということを、ぜひ周知していただきたいです。
- 事務局 : 市の広報やホームページに掲載することで、今の現況をわかりやすく説明し、対応をしていくのではないかと考えています。
このサクラの状況をどのように管理していくかということで、以前にもナンバリングという話が出ていましたが、これまでいろいろと研究をし、どのように実施しているのかななどを調べた結果、鎖で巻くなどの方法がありました。
- 委員 : それは見たことがあります。実際に番号が打たれていました。それをデータ化し、見れるようになったら、情報開示することで、今の状態がわかります。
- 事務局 : 円形と近経を写真として残し、台帳を作成していく予定です。今はサクラだが、これからは少しずつやってきたいと考えています。
- 委員 : ソメイヨシノの寿命は 100 年だと思っていましたが、実際には 50 年ぐらいであると。今あるサクラが何年ぐらい経過した老木なのかわかりませんが、そろそろ寿命になっているというのをぜひ知らせたいです。
- 事務局 : 現在植栽している場所は、あまり環境が良くないところなので、寿命については、確か昭和 62 年ぐらいから植栽していると思いますので、若干早く老木化しています。
- 委員 : 昭和 62 年ということでしたが、どういう経緯であの場所に植栽したのでしょうか。
- 事務局 : 昔からあの辺は、武家屋敷でサクラがあつたらしく、昭和 61 年、62 年ぐらいに地域の方が、植え替えたという話を地域の方から聞いており、

その当時の写真が残っていました。

委員 : 倒木しそうなものが昭和 62 年に植え替えたサクラではないということでしょうか。

委員 : 昭和 62 年に植え替えたものではないと思います。その前に植えたものです。

委員 : ということは、70 年から 80 年ぐらい経過している可能性があります。委員が話していたように、事務局は段取りからやり方はしっかりと実施していると思いますが、気を付けなくてはいけないのは、ここのサクラは、住民のものだけでなく、小田原のサクラだという人がある可能性もあります。マスコミもこの辺は武家屋敷の跡で、こういうものがあってという背景を並べてきて、ここの樹木がいかに大事かということ言われてしまい、それなのに地域住民としか話し合いをしていなかったみたいな話になってしまう可能性があります。事務局から、その辺は重々気を付けて実施しているということで安心しています。

事務局 : 沿線だけでなく、地域で説明会を行いました。説明会を実施した時も、やはり歴史的背景もありますので、いろいろと厳しい意見もあるかと思っていました。当然、自分の庭先に葉っぱが落ちてくるので、早く枝を切ってくれという意見が多かったです。また逆に枝を切ってはいけないという意見もあり、どこで折り合いをつけていくか、難しいと思っていましたが、幸い、地域の方々は、サクラを大事にしているので、今後も保全をしていきたいという考えを持っており、倒木しそうなサクラについては、植え替えていくことに対しては了承いただきました。今後、説明会をあと 2 回ぐらい実施していく予定でいるので、丁寧に進めていこうと考えています。今は、途中の段階なので、実際に診断が完全に終了し、資料がまとまった段階で、説明会を実施していきます。あとは、市外や他からのサクラを見に来る方々に対しても、いろいろと手法を考えながら、丁寧に対応していく予定です。

委員 : 西海子小路通りのサクラは確かに、委員の皆様のご指摘のとおり、あの地域の人達だけのものではなくなっていると思います。周辺にある文学館は国が登録するガーデンツーリズムのメンバーの中に入っており、サクラ並木もセットだと思います。昔の雰囲気が味わえるという感じで、売り出している場所でもあり、広くいろいろな活動をしているんだとい

うことを周知していくのは大事なことです。

あの場所は名所化しており、再整備していくにあたり、サクラの樹種を同じソメイヨシノにするのか、あるいは将来的に違う樹種に転換するのか、その辺の将来像を共有することが大事です。木を大きく育てていくのか、電線に当たらないようにしていくのかによって、植樹の作り方が違ってきます。大きく育てたい場合は、かなりゆったりとした植樹を作らなければなりません。街路樹が育った時の形を共有しておいた方が良いでしょうと思います。おそらく、最初に植え替えをするときは、そんなに大きなものは植えないと思います。多分、3 mから5 mぐらいのものです。将来こういう形になることを考えており、長い目で見てくださいと、そういう理念を持っていることを共有しておくことが大事です。その際、今のままで良いのか、新しい小田原の景観を作っていくのかというのがポイントだと思います。個人的には、ソメイヨシノは結構限界があるので、新しいサクラ並木にした方が良いでしょうと思います。それは、もちろん皆さんが合意した上で実施していく必要があります。

サクラ自身が市民の方が植栽しているのだとしたら、今回の植え替えにあたって、市民の皆様の協力が必要です。例えば、植える時に告知して、皆さんで植えていただくとか、そういった仕掛けも大事です。さらに、今あるサクラを切ったあと、例えばそのサクラをチップ化してみるのも良いかと思います。なかなか材としては、使えないのではないかと。いうご指摘もありましたので、チップ化して、周りの人に還元することも大事ではないでしょうか。そこに住んでいる方への配慮も必要かと思っています。細かいことですが、土ごと全部変えた方が良いでしょうと思います。ソメイヨシノの場合、土の中にいろいろな菌が入っていて、連作障害みたいなことがあります。委員どうでしょうか。

委員 ： その通りです。

(3) その他

委員から資料「都市公園の柔軟な管理運営のあり方に関する検討会提言（概要）」により説明

事務局 ： 次回の審議会の予定だが、委員の改変時期もあるので、日程は後日調整させていただきます。

- 委員 : 現地視察を審議会とセットで実施していただきたいと思います。
- 委員 : 以上をもって、令和4年度第2回小田原市みどりの審議会を閉会します。

以上